

山口情報芸術センター[YCAM] 5周年記念事業

メディアアート作品に使われる最新技術を習得する集中講座

YCAM InterLab Camp vol.1 - openFrameworks -

2008年9月25日(木)～28日(日)

山口情報芸術センター[YCAM]

メディアアート作品の最新技術に学ぶ実践と思考

YCAMの制作プロダクションが主催するワークショップ

「YCAM InterLab Camp (ワイカムインターラボ キャンプ)」は、YCAMの制作プロダクションであるYCAM InterLabが主体となり、第一線で活躍する技術者、研究者を迎え、メディアアート作品に使われる最新技術、ツール、環境、その応用についてのレクチャー、ワークショップ、成果発表を、中・上級者向けの集中講座として毎年開催するものです。実際の制作／展示現場であるYCAMの環境を生かし、最新技術の実践と思考を学ぶ場を提供することで、YCAM InterLabを起点とするメディアアートの技術を育む新たなコミュニティの形成を目指しています。

その第1回目となる今回は、メディアアート作品の最も先端的な開発環境として注目されている「openFrameworks (オープンフレームワークス)」をメインテーマとし、実際の開発者を講師に迎えたレクチャーとワークショップを開催します。4日間にわたるこの集中講座は、「openFrameworks」を日本で大々的に取り上げる初めての試みとなります。

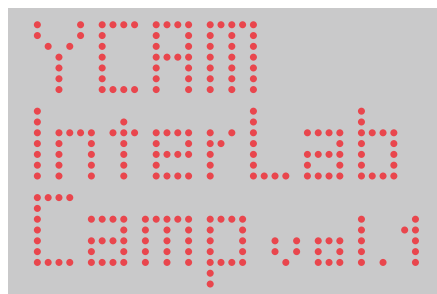
講師

openFrameworks 開発者 / メディアアーティスト

□ ザカリー・リーバーマン Zachary Lieberman

□ テオドア・ワトソン Theodore Watson

* 通訳あり



【カリキュラム概要】

近年のメディアアート作品で多く使われている開発環境 openFrameworks を習得し、実際に使用して作品を制作。4日間にわたり、開発者によるレクチャー、ワークショップを実施する。

レクチャーとワークショップ * 要申込み

9月25日(木)～28日(日)

10:00～18:30

(申込方法は4ページをご覧ください)

成果発表 * 見学自由

9月28日(日)

15:45～18:30

この機会に、取材や記事掲載にご協力いただけますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

お問い合わせ 山口情報芸術センター[YCAM] 広報担当: 廣田、浅原

TEL: 083-901-2222 FAX: 083-901-2216 E-mail: info@ycam.jp

〒753-0075 山口県山口市中国町7-7 <http://www.ycam.jp>

取材に関するお問い合わせ、プレス用写真等ご入用の方は上記までご連絡ください。



YCAM InterLab Camp vol.1

<http://www.ycam.jp/interlab>

技術を読み解くことで見えてくるメディアアートのメッセージ

思考、実験、実践によって技術を習得する新たな場所をスタート



2003年11月1日～11月24日
ラファエル・ロサノ＝ヘメル(カナダ)
「アモーダル・サスペンション - 飛びかう光のメッセージ」



これまでに開催したワークショップの様子

【YCAM InterLab Campの目的】

- ・最新技術についての技術と知識の習得。
- ・専門家やハイレベルなアマチュア間の交流の場を築き、技術的な知識とスキル、思考能力を持った人材とコミュニティの育成。
- ・制作と普及の方法やプラットフォームについての新しい方向性、可能性についての集団的模索。

メディアアートの技術的な部分は、アーティストの目的を達成するための単なる手段ではなく、作品のコンセプトそのものと深い結びつきを持っています。

たとえば、YCAM開館記念事業として開催した「アモーダル・サスペンション」では、軍事技術として開発されたサーチライトを、携帯電話で送り合う個人的なメッセージを視覚的なものへと変換するために用いました。技術とその社会的な背景、コンテキストをクリティカルに扱い、作品のアーティストィックな側面と一体化させた好例といえるでしょう。

メディアアート作品の技術的側面は、直接的／間接的に鑑賞者のインタラクション(行為)や感情、理解を引き出すものです。しかし、その作品がどんな機材、プログラム、インターフェースを使っているのかは、作品のコンセプトを語る時、アーティストィックな主題の影に隠れてしまいがちです。しかしながら、こうした技術的な側面は、コンセプトそのものや現代社会への洞察と思考、制作者の社会的なスタンスと密接につながっているのです。新しい技術が生まれてくる背景には、現代社会や世界を理解するための思考や思想があるはずで、最近のオープンソースやクリエイティブ・コモンズ、DIYのブームなどはそのいい例であると考えられます。

「YCAM InterLab Camp」では、単なるツールとしての技術の習得だけを目指すのではなく、技術が持っている思想や社会的なコンテキストにも注目し、思考、実験、実践していこうというものです。

また、イベントを通して、技術の習得や参加者同士の交流や人的ネットワークの構築、さらには研究開発やその普及の方法についても、探っていこうと考えています。

YCAM InterLab

YCAM InterLabとは、YCAMで滞在制作されるアート／シアター作品、エデュケーションプログラムの技術開発に携わる制作プロダクションであり、また、テクニカルスタッフとして招聘作品の展示や上演をサポートするセクションです。

照明、音響、映像、舞台機構、プログラミング、デバイス制作、ネットワーク技術、空間デザイン、グラフィックデザイン、アーカイブ、制作マネージメントを専門とするメンバーからなり、最新のメディアテクノロジーを用いた芸術表現に対応できる技術を持っています。また、アーティストや外部のエンジニアとのコラボレーションだけでなく、独自の研究開発も行い、他の文化施設や研究機関とも連携を行っています。



YCAM InterLab Camp vol.1 メインテーマ

openFrameworks

<http://www.openframeworks.cc/>

メディアアート作品に使用され始めた新しい開発環境

開発者を招いた日本で初めての集中講座

openFrameworksとは、プログラミング言語C++でのクリエイティブなコーディングのためのオープンソースツールキットで、ザカリー・リーバーマンとテオドア・ワトソンが共同開発しました。

openFrameworksの特徴は、C++ができなくても習得が可能で、画像処理や音声処理が容易にできること、さらにその処理速度の早さにあります。昨年あたりから、世界中のメディアアーティストが使い始め、いま、最も注目をあびている制作環境といえます。オーストリアで開催するメディアアートの祭典「アルス・エレクトロニカ2008」では、インタラクティブ・アート部門のHonorary Mentionsに選ばれました。

日本では一部の人が使いはじめたばかりで、教育機関以外でのワークショップは開かれていません。YCAMで開催するレクチャーとワークショップは、中・上級者向けの少人数、そして開発者本人から学ぶことができる極めて貴重な機会となります。

また、本講座では、同じC++の画像処理ライブラリであるOpenCVも紹介し、OpenCVをアドオンとして導入する方法も解説します。

【openFrameworksで制作された作品例】



クリス・サグリュ
Chris Sugrue
「Delicate Boundaries」2008

モニター上の映像では、うごめく小さな虫のようなオブジェの群れが動いている。観客がモニターに手を差し伸べると、それらが手の上へと徐々にはい出してくるインタラクティブ作品。

*この作品は、2008年11月よりYCAMで開催の「ミニマム インターフェイス」展で展示される予定です。

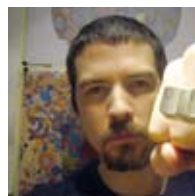
開発者/講師



ザカリー・リーバーマン Zachary Lieberman

<http://www.thesystemis.com/>

メディアアーティスト、プログラマー。アートの展覧会や教育の現場で活躍し、遊び、コミュニケーションの本質、可視/不可視の間の微妙な境界に迫るユニークな方法でテクノロジーを扱う。ジェスチャー入力や身体の拡張についての研究開発を取り入れたパフォーマンス、インスタレーション、オンライン作品等を作成。ゴラン・レヴィンとのコラボレーション作品「Remark」「Messa Di Voce」は国際的な展覧会で数多く展示。「Drawn」は、アルス・エレクトロニカとCYNETartで受賞。「Opensourcery」では、スペインの魔術師マゴ・ジュリアンと協働し、オープンソース・ソフトウェアと伝統的なマジックとの組合せによって新しいトリックの領域を開拓。現在は、身体の不自由な学生のため、彼らの動きを視聴覚の応答に変える自己表現のためのソフトウェアを開発中。



テオドア・ワトソン Theodore Watson

<http://muonics.net>

アーティスト、デザイナー、実験者。好奇心や生き生きとした経験をデザインすることで、人々を遊びの精神へ駆り立てるような作品を制作。アーティスト的な表現のための新しいツール、実験的な音楽システム、身体を使った没入型のインタラクティブ環境の開発を行う。最近ではグラフィティ・リサーチ・ラボのレーザー・グラフィティ・システム「Laser Tag」や、没入型インタラクティブ・エコシステムの「Funky Forest」を制作。彼の作品はMoMA、テート・モダン、アルス・エレクトロニカ、サンダンス映画祭、Res Festなど世界各地で紹介されている。

開催概要

YCAM InterLab Camp vol.1 - openFrameworks -

2008年9月25日(木)～28日(日) 10:00～18:30 山口情報芸術センター[YCAM]

【講師】 ザカリー・リーバーマン(メディアアーティスト、openFrameworks 開発者)
 テオドア・ワトソン(メディアアーティスト、openFrameworks 開発者)

【ゲスト講師】 上田悦子(奈良産業大学 情報学部 准教授)

<http://www.ycam.jp/interlab>

【カリキュラム概要】

・レクチャーとワークショップ

最近多くのメディアアート作品の開発環境として使われている「openFrameworks」に焦点をあてた、開発者によるレクチャーとワークショップ。同じC++の画像処理ライブラリであるOpenCVも紹介し、OpenCVをアドオンとして導入する方法も解説する。

・参加者によるプレゼンテーション

参加者が開発・制作しているツールや作品などを参加者同士でプレゼンテーションする機会を設け、講師、参加者、YCAMスタッフが、それぞれの作品や研究開発を見せ合いながら、交流する場を設けます。

【対象】

openFrameworks、画像処理プログラミングを用いたメディアアート作品の制作、開発に興味のある人。

ある程度のメディアテクノロジー(メディアアートやインタラクティブデザイン、CG映像などのクリエイションに関わる)に対する専門的な知識、スキル、経験のある人。

プログラミング経験者、openFrameworks経験者を歓迎。

【定員】 20名

【受講料】 学生：20,000円／一般：36,000円(4日間通し)

*受講料は当日受付にてお支払いください。なお、学生の方は、お支払いの際、あわせて学生証をご提示ください。

【日程】 *通訳あり

□1日目：9月25日(木)

- ・ガイダンス：講師とopenFrameworksの紹介
- ・参加者の自己紹介
- ・環境の構築：インストールとスタートアップ
- ・課題の設定：openFrameworksを利用した作品の立案

□2日目：9月26日(金)

- ・目標の設定：openFrameworksを利用した制作物を決定
- ・制作

□3日目：9月27日(土)

- ・レクチャー：OpenCVをアドオンとして導入する方法の紹介
- ・制作

□4日目：9月28日(日)

- ・設営：実際の制作作品を展示する
- ・成果発表：参加者によるプレゼンテーション

*成果発表(15:45～18:30)は見学自由

*1日目には、参加者の方々がこれまで手掛けてこられたプログラムやアート作品等を紹介していただきます。

申し込み方法

受講希望の方は、YCAMウェブサイト<http://www.ycam.jp/interlab>に掲載されている内容をご確認いただき、e-mailにて、氏名(ふりがな)、住所、年齢、電話番号・e-mail等連絡先、所属、プログラミング経験等をご記入の上、labcamp@ycam.jpへお申し込みください。

申込期間：2008年8月4日(月)～8月31日(日)

なお、お申し込みの後、講座内容と受講の可否については、追って担当者よりご連絡いたします。定員に達した場合は、受講をお断りする場合がございますので、ご了承ください。

【お問い合わせ】

山口情報芸術センター[YCAM]
 「YCAM InterLab Camp vol.1」係
 〒753-0075 山口市中園町7-7
 TEL: 083-901-2222
 FAX: 083-901-2216
 e-mail: labcamp@ycam.jp

山口情報芸術センター[YCAM]までのアクセス

JR新山口駅から

- ・JR山口線湯田温泉駅下車、徒歩25分/タクシー5分
- ・JR山口線山口駅下車、徒歩25分/バス10分(中園町か済生会病院前下車)/タクシー5分
- ・防長バス/JRバス30分、中園町下車すぐ

自動車利用

- ・山陽自動車道で防府東ICから約30分・九州・中国自動車道で小郡ICから25分

